

たとえば、こんな
石田さんの 1週間

地域の中でのイベントを企画・開催するのが主な仕事です。デスクワークと外回りは半分半分くらい。



Monday..... 仕事

窓から海が見える快適なオフィスへ出勤します。まずは、地域おこし協力隊の本部や懸案事項のメールなどをチェック。その後イベントや交流会などの企画書作成などを行います。



Tuesday..... 仕事

事例発表や打ち合わせなどで尾鷲には週1回、東京や大阪へも月1回くらいは出張します。たまの都会はいい息抜きになりますね。

Wednesday..... 仕事

漁のある時期には朝から水揚げの手伝いをしたり、漁についていたり。そんな朝が早い日は、昼に1回自宅に戻って昼寝をして、午後から再び出勤して仕事をすることもあります。



Thursday..... 仕事

現在、早田町で暮らすのは80世帯くらい。しばらく顔を見ないお年寄りの家を訪ねておしゃべりするの大切な仕事のひとつ。

Friday..... 仕事

時には1日PCの前でアイデアを練る時間も大切。現在は、他の地域で早田の地魚と一緒に別荘で食べるという催しも始まり、そのアプローチの仕方や具体的な内容などを考えます。



Saturday..... 休み

休みの日には遠距離恋愛中の彼女に会いに行くこともしばしば。天気の良い日には三重県の別地域へのドライブも楽しみます。

Sunday..... 休み

海だけではなく、たまには地域の畑仕事もお手伝い。若い男手はいつでもどこでも引っ張りだこのです。地域のお母さんと一緒に、伝統的なクキ漬け作りも体験しました。



取材メモ
東日本大震災があり、地域のために何かしたいと思い、今の仕事を選んだ石田さん。将来は、早田町で経験したことを自分の故郷でも活かして「宮城の地元で青森のねぶた祭りのような観光の目玉となる祭りを作るのが夢」と語る石田さんの活動に注目です！



石田さんの 尾鷲ライフ

地域共有の船がレンタルできる 特典もうれしい！

①尾鷲に来てから小型船舶の免許を取得。自分で釣りにいくことも

漁師町の生活を知るためには海へ出なくては、ということで時には漁船に乗せてもらって沖釣り体験。プロの技を間近に見られる最高に贅沢な時間です。仕事後に目の前の海で釣りをすることも。

②テトラポッド周辺でもアジやサバなどが釣れます

③世代も似た者同士でおしゃべり。息抜きはもちろん活動のヒントを得ることも

隣の集落にも同世代の地域おこし協力隊メンバーが在住。そこは地域唯一の喫茶店の復活がミッション。その店を訪れるのはプライベートな楽しみのひとつです。この日は熊野市の協力隊と合流。



④いろいろな人と会い、情報交換もできる希少な時間

⑤近所付き合いも大切にしています。自宅です仕事の内容をゆっくり吟味することもあります

⑥お茶しながら早田町を元気に！

⑦みんなの話を聞きたい！「げんきのま」を主催

⑧家賃不要で、2階建て一戸建に一人暮らし！

⑨お財布事情

⑩名古屋へは意外と近いですよ 乗り換えて東京へ行くことも



④小型船舶免許を取得した石田さん。すっかり漁師町の住民だ



⑤仕事場の目の前は海！漁港内でも透明度が高く、鮮やかな熱帯魚の姿も

自分の故郷を思いつつたどりついたのが三重 地域おこし協力隊に参加したきっかけは？ 「私の実家は宮城県田舎町で、東日本大震災でも幸い家族は無事でした。ただ、私自身も当時東京で就職が決まった頃、遠くにいる自分にはできることはないのか、いやもっと日本全国他の地域にも課題はあるんじゃないかと関心を持ちました。

そんな中で縁あって見つけたこの尾鷲市早田町の地域おこし協力隊の募集。東京の説明会で出会った尾鷲の方の話にぐいぐい引き込まれ、いつの間にか三重に住んでました(笑) 「三重の印象はどうですか？」 「人生初の三重県で、しかも人口150人規模の小さな漁師町。三重の人でも訪れたことがないかもしれない。最初は地元の人とうまくやれるのか不安でした。でも挨拶だけはきちんとしよう」と心がけているうちに、いっしょに受け入れてもらっていて魚の捌き方も習ったので、これで食事には困りません(笑) 新しいアイデアで人と地域を元気にしたい

協力隊ではどんな活動を？ 「たとえば早田町では、漁師の後継者育成活動が行われ、現在20〜30代の若手漁師が15人ほど移住した成功事例があります。私のミッションは、ここに会社を作ること。地元で暮らす女性の働く場所として地域のお母さんたちが尾鷲の地魚料理などで弁当を作り、町内外向け販売しています。まずはこの地域での成功実績を残さなければなりません。私なりのアイデアを出して、ここ早田町を元気にしていきたいですね」

縁あって 三重に住んでいます

No.3 地域おこし協力隊 地域を元気にしたいから 東京から尾鷲へ移住しました



石田 元気さん(27) 宮城県出身。京都の大学を卒業し、東京の専門商社へ就職。3年半勤めた後、地域を活性化する仕事にしたいと、2014年7月より尾鷲市の地域おこし協力隊に参加。

生まれ 宮城 学校 京都 仕事 東京 仕事 尾鷲



⑥石田さんのオフィスは海が目の前の漁港内。窓から見える眺望が何より魅力



⑦尾鷲在住のデザイナーに依頼して作成したお弁当のパッケージ

⑧イベント告知も大事な仕事。朱と黒の筆ペンを使って味のあるチラシを作るのが得意



⑨漁協関係者や漁師との談笑から仕事のアイデアが生まれることも